

# 琉球大学学術リポジトリ

## 島嶼地域の特性を活かした新たな特別支援教育ネットワークシステムの構築

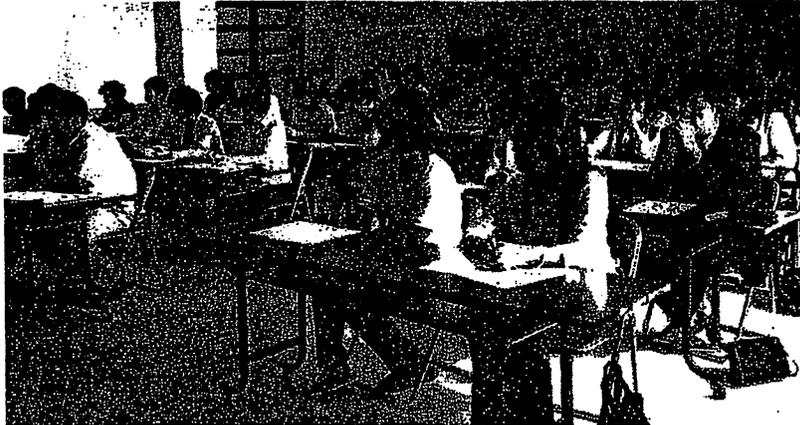
メタデータ	言語: 出版者: 緒方茂樹 公開日: 2009-03-06 キーワード (Ja): 特別支援教育, 離島地域, 宮古圏域, ネットワークシステム, 公立学校, 養護学校, 教育相談, 学校支援 キーワード (En): 作成者: 緒方, 茂樹, Ogata, Shigeki メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/9108">http://hdl.handle.net/20.500.12000/9108</a>

# 各機関でネットワーク構築を

## 特殊教育の指導拡充

### 琉大の「特別支援教育」で講演会 緒方さん

障害のある児童・生徒の生活や学習上の困難克服に向けた支援を行う「特別支援教育」についての講演会が二十七日、ゆいみなあ（平良市働く婦人の家）で行われた。琉球大学教育学部助教授の緒方茂樹さんが講話し、特別支援教育コーディネーターを中心とした各関係機関のネットワークシステムの構築を提言。各校における実態の把握やニーズの明確化、各関係機関における柔軟な情報交換などを促した。会場には各市町村の教育関係者や父母らが集まり、今後の対応や体制づくりについて知識を深めていった。



多くの教育関係者が、障害を持つ子供たちに対する特別支援教育の体制整備について知識を深めた=27日、ゆいみなあ（平良市働く婦人の家）

特別支援教育とは、知的、言語障害などを対象とする従来の特殊教育から学習障害や注意欠陥、多動性障害、知的障害を伴わない高機能自閉症などの子供たちを対象を広げ、生活や学習の支援を行う教育。この講演会は、昨年度に文部科学省が発表したガイドラインで、二〇〇七年度までに支援体制を構築する方針が打ち出されたことを受け、宮古での在り方を探ろうと開いた。来年度には具体的な支援を行ったり各機関を連絡調整する「コーディネーターを各校に配置。現行の盲・ろう・養護学校は「特別支援学校」へ、普通学校の特殊学級は「特別支援教室」へと移行する。



緒方茂樹さん

緒方さんはこれまで、光の当たりにくいゾーンにいた子供たちに対し、適切な対応を考えていかなければならぬ。最終的には通常のクラスで力を高められるよう支援することが大切」と指摘。関係機関のつながりについては「宮古は人のつながりが深く、その特性を生かせば個人から組織へと拡充しやすい。専門性によって校内に複数の担当者置いたり、教育委員会と学校現場の意見交換を柔軟にするなど、役割を分担して柔軟なネットワークの構築を」と述べた。また、共通認識の下での支援体制をつくるために「いわゆる、気にかかると子供の個性が何らかの障害に由来するものかの見極めや、具体的なニーズを把握するために研修会の充実が必要」と関係者の意識高揚を促した。

現在、宮古管内の普通

学校における特殊学級の設置数は、小学校十校、中学校六校。講演に先立ち宮古教育事務所の本村幸雄所長は「障害を持つ子供一人ひとりが、人とのかわりの中で豊かに生きるための教育を充実させていこう」と呼び掛けた。

# 情報共有 共通認識を

## ネットワーキングの重要性

### 特別支援 緒方氏(琉大教育)が講演

学習障害や注意欠陥・多動性障害のある子供達を支援する(左)を目的



真剣な表情で講演に聞き入る参加者ら＝平良市勤婦人の家

た二〇〇四年度特別支援教育講演会(主催、宮古教育事務所、平良市教育委員会)が二十七日午後、平良市勤婦人の家ホールで開催された。琉球大学教育学部附属教育支援センターの緒方成樹氏が講演し、子供と保護者が安心して相談できる必要を感じ、適切な指導を受けられるネットワーキングの大切さを強調、つくりの大切さを強調、真摯及び具体的な支援の把握が急務とした。講演後は、学校現場の教諭が

具体的な質問が行われ、子供達のより良い指導に向けた学校現場の試行錯誤の様子が伺われた。緒方氏は、対象となる児童生徒が学習障害や注意欠陥・多動性障害や知的障害を伴わない高機能自閉症の児童であることが基本的な方針、いずれも特別支援学校へ移行する個別の教育支援計画の考え方や、来年度までに各校に設置されることになった特別支援センター、特別支援学校

の役割、教育機関や医療機関、福祉機関を網羅したネットワーキング案などを説明しながらネットワーキングの重要性を強調。

講演後は、課題に直面している現場教諭の活発な質問が行われた。

ことにより、情報の共有化、共通認識の促進などを説明した。「宮古では人的ネットワークは非常に重要である」とも、今後には情報共有のネットワーク構築が課題とした。また、「普通学校に在籍する子供や学校実態を把握し、具体的な支援策を明確にすることが重要である」とも強調した。

講演後は、課題に直面している現場教諭の活発な質問が行われた。

講演後は、課題に直面している現場教諭の活発な質問が行われた。

講演後は、課題に直面している現場教諭の活発な質問が行われた。

講演後は、課題に直面している現場教諭の活発な質問が行われた。

講演後は、課題に直面している現場教諭の活発な質問が行われた。

講演後は、課題に直面している現場教諭の活発な質問が行われた。

講演後は、課題に直面している現場教諭の活発な質問が行われた。

講演後は、課題に直面している現場教諭の活発な質問が行われた。



緒方成樹氏

# 特別支援教育に連携

## 会長に緒方さん(琉大)選任

宮古地域特別支援教育連携協議会の今年度第一回会議が二十五日、宮古教育事務所で行われ、会長に緒方茂樹琉球大学教育学部教授を選任するとともに、専門家チームの今後の在り方などについて意見を交わした。

同協議会は、障害のある子どもたちのニーズに応じた教育や福祉医療、労働など、関係機関の連携による教育的支援体制の整備の推進および地域における特別支援教育の推進を図ることを目的に設置。活動は今年で三年



緒方茂樹琉大教授

目になる。

会議の冒頭、あいさつした新崎治宮古教育事務所長は「学校で困っている子どもたちをどうサポートしていくかは大きな課題。子どもたちの信頼関係を構築していく方策を提言してもらえれば」と述べた。

会議では、緒方会長が県内における特別支援教育の動向や今年度の事業内容などを説明。今年度の新たな試みとして、実務部隊としての専門家チームの機能の充実などを挙げた。

同協議会委員と専門家チーム(実務担当者)は次の通り。

【協議会委員】▽会長 緒方茂樹(琉大教育学部教授)▽副会長 安谷

校長▽委員 原真理子(宮古福祉保健所長)、

與儀千寿子(南小校長)、

龜沢敏郎(下中校長)、

下地盛雄(宮古豊林高校長)、

田場秀樹(宮古教育事務所指導課長)、

川原和(宮古島市教育委員会学校教育課主幹)、

瀬名波正敏(みやこ学園支援課長)

【専門家チーム】▽緒方茂樹(琉大教育学部教授)▽武富博寿(宮古病院小児科医長)▽池原和

子(宮古福祉保健所保健師)▽大城由美子(沖縄

リハビリテーション福祉学院)▽宮川正廣(地域

生活支援センターコーディネーター)▽上原ひ

るみ(宮古看護学校教諭

コーディネーター)▽乾

麗子(輪原中養護教諭)▽池間広樹(宮古島市教育委員会就学担当)

17

2007/5/17

宮古新報



実を目的に琉球大学教

【宮古島】離島教育の  
**琉大の研究成果**  
**宮古島市に還元**  
 離島教育協力で協定



協定を締結した琉球大学教  
 育学部の會澤卓司学部長と  
 宮古島市教育委員会の久員  
 勝盛教育長（右から）が  
 古島市役所庁舎

に於ける協定書」を締結  
 した。締結に併せて琉大  
 側は鹿兒島、長崎両大学  
 との三天学で進める離島  
 ・へき地域の教育に関  
 する研修型「クシヨツ  
 プ」を二〇八年の早い時  
 期に宮古島市内で開講す  
 る考えを伝えた。  
 離島地域を抱える三天  
 学は〇五年度から「離島  
 教育の革新」をテーマに  
 研究を続けている。クシ  
 ヨツには市内の教  
 員も参加し、大学側と現  
 場教員の意見交換を図る  
 場となる。市教委側も受  
 け入れの意向を示してお  
 り、双方で近く連絡推進  
 会議を立ち上げ、具体的  
 な準備作業を進めてい  
 く。

會澤学部長は「宮古島  
 市と琉大は特別支援教育  
 の協力実績がある。今  
 後はテーマを国語や算数  
 など各教科に広げて、教  
 育委員会の要請に応えら  
 れるようしたい」と抱  
 負。久員教育長は「大学  
 のクシヨツは素晴らしい  
 く、宮古島の教員がし  
 ゃべつにない、  
 子どもたちにも還元され  
 る」と喜びを語った。

2007/5/22

仲尾 弘人

# 教員、学生の資質向上を

## 市教育委員会と 連携・協力で調印

宮古島市教育委員会と琉球大学教育学部が十八日、相互の資質向上を目的とする連携・協力に関する協定書に調印した。

調印により、宮古島市の戦の勝利に向け氣勢を上げた。

西銘 順志郎（77）め・じゅんしろう（77）50（昭和25）年1月2日生まれ。南城市出身。立正大学経済学科卒業。73年琉球海運入社。79年から県知事秘書を務めその後、自民党青年局中央常任委員、同党沖縄支部連合会総務会長、同副会長などを歴任。04年参院選初当選。現任、自民党員連会長。

そのほか、饒間光男浦添市長、古謝賢春南城市長、糸洲朝則公明党県本部代表らが西銘氏の勝利に向け、集まった支持者らに支援を訴えた。最後は、四月の参院補選で当選した島尻安伊子参院議員によるカンパ口一三唱が行われ、選挙

教員には大学における高度な教育と研究に触れる機会が、琉大の教員や学生には離島教育の現状を学ぶ場がそれぞれ提供される。琉大教育学部が自治体の教育機関と同様の協定を結ぶのは県内で四例目。

調印式は宮古島市役所平良庁舎で行われ、市教委の久員勝盛教育長と琉大教育学部の會澤卓司学部長が調印、連携、協力を約束した。

會澤学部長は「われわれの大学はレベルの高い、質の高い学生を養成することが任務。一朝一夕にはいかながら今回のよ

うな協定で現場のニーズとほ何かということ考

考えることができる。学生の実践力や離島へき地教育を向上させたい。大学からもできる限りのことを市に還元していきたいと考えている」と協定の意義を強調した。

久員教育長は「長い間の夢がかなった。この調印を機に、宮古島市の教育

育のレベルアップを図るとともに、子どもたちの質の高い教育を保証していきたい」と話した。

協定書によると、事業内容は▽市の教員の資質向上のための研修開催▽市の教育上の諸課題に対応した調査・研究▽琉大の教員や学生による宮古島市における教育活動▽琉大の学生の宮古島市におけるインターンシップに関することなど。

市教委の具体的メリットとして、教員が調査・研究のために琉大で学ぶ機会が得られる。そのほか、琉大が宮古島市で「出前講座」を開催することから、講演会形式による資質向上の機会が増えることが挙げられる。



古島市教育委員会と琉球大学が協定書に調印した。左から、市教委の久員教育長（左）と琉大教育学部の會澤学部長（右）。18日、宮古島市役所平良庁舎

# 教育の質向上で連携

# 市が琉大と協定調印



教育に関する連携・協力で協定書を手握手する久員教育長（左）と會澤学部長＝市役所平良庁舎6階

宮古島市教育委員会（久員勝盛教育長）と琉球大学教育学部（會澤卓司学部長）は十八日午後、市役所平良庁舎内で市教職員の資質向上や教育活動支援などを盛り込んだ連携・協力に関する協定書に調印した。同学部が地方自治体及び関係機関と協定を結ぶのは県内で四番目。具体的な連携・協力は今後、両者で組織する連携推進会議を設置した上で実施する方針で、協定を踏まえ関係者では、市教員の同学部への派遣研修、宮古における教育に関する調査・研究を通じた教育環境向上に期待を寄せている。

## 教員の研修、調査実施

協定内容は、市立学校の幼児・児童・生徒、同学部の教員・学生を対象とした事業を実施するもの。市教育委が大学での高度な教育や研究にふれる機会を提供して個々の能力や適正を伸ばすとともに、同学部の教員と学生が離島の宮古島の教育に対する理解を深めるため、教育に資する研究と事業を行うことが目的。事業では市教員の研修や読書会などを実施。調査・研究、学部による教育活動支援と市における学校インターシップなどを位

置けている。協定期間は一年間とし、両者の改定申し入れがない場合は一年ごとに継続する。

調印式で會澤学部長は「学部は教員養成の重責を担っているが、中央教育審議会や教育再生会議など、外から厳しい注文が寄せられている。教員養成で求められるのは実践力。理論、実践の質を上げていくことが任務。現場との交流、連携・協力を、ニーズに応えられる教育をどうつくるかが課題である。その意味で宮

古島市教育委員会との連携・協力により、実践力を高め、離島へき地教育について市の力を借りて学部と連携し、学部で新しいカリキュラムを開発して市に還元したい」と意欲を見せた。久員教育長は、「長い間の夢であり、念願だった調印式が行われ嬉しく思う。これを機に宮古島のレベルアップを図り、子どもたちに質の高い教育を保障することができるよう努力したい」と述べ、協力を求めた。立ち会った伊志嶺亮市長は、「教育をめぐる状況は変動の時期にある。市としては昨年、教育研究所を立ち上げた。協定によって市教職員への指導が得られることなどについては宮古の児童・生徒の教育環境向上につながる」と期待を寄せた。

2007/5/19

宮古新報

# 池間小の「オカガニ」観察会「好例」

## 地域素材を教材に活用

【本紙記者 池間 幸子】宮古市池間町の池間小学校で、地域素材を教材にした観察会が行われた。児童らは、池間川で採れたオカガニを観察し、その生態や生活環境について学んだ。

池間小学校の児童らと教員らによる観察会。オカガニを観察している様子。



離島、へき地における学校教育を考えるフォーラム＝29日、宮古支庁



キャリア教育についてのワークショップで議論を深めた教師ら＝29日、北中学校

【本紙記者 池間 幸子】宮古市池間町の池間小学校で、地域素材を教材にした観察会が行われた。児童らは、池間川で採れたオカガニを観察し、その生態や生活環境について学んだ。

池間小学校の児童らと教員らによる観察会。オカガニを観察している様子。

# 07年総販売額は2700万円

## 子牛の自家保留が奏功

【本紙記者 下地 昭昭】宮古市で、子牛の自家保留が奏功し、07年の総販売額は2700万円に達した。これは、前年比で約1割増の伸びを示している。

子牛の自家保留が奏功し、07年の総販売額は2700万円に達した。

友が積極的に学校がかわると、教師の風情もよくなる。教師の風情もよくなる。教師の風情もよくなる。

ワークシ ョップ 家庭・地域との連携必要

【本紙記者 池間 幸子】宮古市池間町の池間小学校で、地域素材を教材にした観察会が行われた。児童らは、池間川で採れたオカガニを観察し、その生態や生活環境について学んだ。

# 初の宮古キャンプで来島

## リーグV奪回目指す

【本紙記者 池間 幸子】宮古市で、初の宮古キャンプが行われ、リーグV奪回を目指す。これは、前年比で約1割増の伸びを示している。

初の宮古キャンプで来島。リーグV奪回を目指す。

大会に向けて出発した男女の宮古選抜チーム＝29日、宮古空港



# 宮古選抜チームが出発

## きょう県ミニバスケ

【本紙記者 池間 幸子】宮古市で、宮古選抜チームが出発し、きょう県ミニバスケ大会に出場する。これは、前年比で約1割増の伸びを示している。

宮古選抜チームが出発。きょう県ミニバスケ大会に出場する。

【本紙記者 池間 幸子】宮古市で、初の宮古キャンプが行われ、リーグV奪回を目指す。これは、前年比で約1割増の伸びを示している。

初の宮古キャンプで来島。リーグV奪回を目指す。

【本紙記者 池間 幸子】宮古市で、初の宮古キャンプが行われ、リーグV奪回を目指す。これは、前年比で約1割増の伸びを示している。

初の宮古キャンプで来島。リーグV奪回を目指す。

【本紙記者 池間 幸子】宮古市で、初の宮古キャンプが行われ、リーグV奪回を目指す。これは、前年比で約1割増の伸びを示している。

初の宮古キャンプで来島。リーグV奪回を目指す。

【本紙記者 池間 幸子】宮古市で、初の宮古キャンプが行われ、リーグV奪回を目指す。これは、前年比で約1割増の伸びを示している。

初の宮古キャンプで来島。リーグV奪回を目指す。

**事務所開き**

宮古駅前バス  
タクシー

**おかげさまで9周年**

お客様感謝セール

店頭販売のみ  
配達出来ません!

5kg 1,180円

**みやぎ米屋(株)**

TEL 73-7068 / FAX 73-7073

**CALISM**

IN LIFE

ギャングスタスタイル

**オープン**

あびの川  
オタクハウス  
サンダー

あびの川  
オタクハウス  
サンダー

東平安名崎方面  
マンゴースイーツカフェ

**新香茶**

TEL 77-8878

ATARAKACHA

2月23日(土)オープンしました

**ランチタイム**

11:00~14:00

9:00~18:00

**電動四輪車**

燃費に  
振込ラクラク

免許不要

170,000円

メンテナンスもおまかせ下さい  
中古車も取り扱っています

